

平成27年5月12日

第18回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる！
「北区赤羽地区の活性化」の
城北信用金庫（東京都）が会長賞に

一般社団法人全国信用金庫協会

全国信用金庫協会（会長：大前 孝治）が実施している、信用金庫業界の顕彰制度第18回「信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

第18回「信用金庫社会貢献賞」受賞活動

賞の種類	信用金庫名（都道府県）	受賞活動名
会長賞	城北信用金庫（東京都）	北区赤羽地区の活性化
Face to Face 賞	福島信用金庫（福島県）	商店街復活へ「ふくしま逸品アカデミー」
	湘南信用金庫（神奈川県）	久里浜おつかい便「御用聞きプロジェクト」
	津山信用金庫（岡山県）	全国公募のしんわ美術展と企画展開催
個人賞	さがみ信用金庫（神奈川県） 市川 博之氏	人形芝居を通じた郷土文化の再発見
	昭和信用金庫（東京都） 鈴木 勝哉氏	地域で繋がっていく青少年育成
	蒲郡信用金庫（愛知県） 松山 公勇氏	創作ミュージカルの音楽制作
地域活性化しんきん 運動・優秀賞	しののめ信用金庫（群馬県）	富岡製糸場世界遺産登録への支援活動
	大阪シティ信用金庫（大阪府）	シティ信金商店街PLUS事業

本賞は、地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫が、様々な分野で地域貢献・社会貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々に知っていただくとともに、地域における存在価値を一層高めていくことを目的に、平成9年に創設いたしました。このような、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕彰することは大きな意義があると考えております。

今回は、昨年11月から本年1月までの募集期間に、160信用金庫・5関係団体から559件の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、東日本大震災からの復興支援、地域活性化への取組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。選考委員会での厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞6信用金庫、個人賞受賞3名の活動が決定いたしました。なお、来る6月19日（金）開催の第136回全信協通常総会において表彰式を執り行う予定です。

 <参考> 第18回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

地区名	金庫・団体数	応募件数
北海道	12	35
東北	14	40
関東	29	84
東京	14	56
北陸	7	12
東海	26	115
近畿	27	105
中国	11	44
四国	3	9
九州北部	5	19
南九州	12	34
団体	5	6
合計	165	559

活動分野別応募状況

活動分野	応募件数
地域社会活動	326
スポーツ	46
社会福祉	24
芸術・文化	29
教育	44
環境	59
健康・医学	10
国際交流	0
史跡・伝統文化保存	3
災害救援	18
学術	0
合計	559

本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 小西、斎藤、吉葉、鈴木、山本 (TEL.03-3517-5722 FAX.03-3517-5792)までお願いいたします。

第18回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

1. 選考総評 “地域活性化”こそ信金の生きる道

選考委員 松岡紀雄氏（神奈川大学名誉教授）

第18回を迎えた社会貢献賞には、新規116件を含む過去最大の559件の応募が寄せられた。応募や推薦の書類を見て思うことは、さすが信用金庫だけあって、総じて活動計画がよく練られ、丁寧に記述されていることである。地域的に見て、中国、四国、九州北部地区の応募や受賞が少ない点は惜まれる。今後の積極的な活動と応募を、強く期待したい。

今回の**会長賞**には、城北信用金庫の「北区赤羽地区の活性化」が選ばれた。昨年に続いて東京の金庫であり、また大前会長ご自身が理事長を務める金庫であることに、選考委員会として躊躇がなかったわけではない。しかし、地域の活性化をとという強い思いから、金融という枠を超えて中心的に取り組んできた春の「赤羽馬鹿祭り」は、本年で実に60回目を迎える。マンネリ化に陥ることなく、平成20年代に入って新たに冬の「東京・赤羽ハーフマラソン」や、晩夏の「北区花火会」の開催でも大きな役割を果たしている。多くの役職員やOBが積極的に参加し、地域の人々の絆づくりにも大きく貢献している。そのスケールは群を抜いており、これまでに個人賞以外の受賞歴がなかったことも考慮して、文句なしの会長賞となった。

Face to Face賞には、3金庫の取組みが選ばれた。福島信用金庫の「ふくしま逸品アカデミー」は、原発禍に苦しむ福島にあって、商店街連合会有志と知恵を絞り、補助金・行政に頼らない自立した専門店ネットワークを立ち上げようとしている。「昨日よりは今日、今日よりは明日を、どうしたら明るく健気に生きていくことができるか」という、厳粛な思いから生まれ出た」という言葉が重く響いてくる。湘南信用金庫の「久里浜おつかい便」は、衰退が進む商店街の販路拡大と、高齢化による買い物弱者への支援を図ろうとする「現代版御用聞き」である。高齢者の見守り活動も担った、地域を見据えた取組みと言えよう。津山信用金庫の「しんわ美術展」は、1976年に創立50周年を記念して創設した津山しんわ文化財団を通じた四半世紀にわたる文化活動である。観光振興の一翼も担っている。

個人賞には、市川博之さん（さがみ信用金庫）の「相模人形芝居 下中座」の活動、鈴木勝哉さん（昭和信用金庫）の「地域で繋がっていく青少年育成」、松山公勇さん（蒲郡信用金庫）の「創作ミュージカルの音楽制作」が選ばれた。いずれも自らの中高校生時代の経験や、特技、感性を生かした活動である。その努力と地域との関わり、信金のイメージアップへの貢献が高く評価された。

地域活性化しんきん運動・優秀賞には、2つの金庫が選ばれた。しのめ信用金庫は、富岡製糸場が昨年6月に世界遺産として正式登録される過程で、地元信用金庫として推進のための事務局という重要な役割を担い、地域活性化にも多大な貢献をした点が評価された。

大阪シティ信用金庫の「シティ信金商店街PLUS事業」は、地元商店街の魅力を高め、賑わいを取り戻そうという果敢な実践である。関西大学と連携して、天神橋商店街に学生のコンシェルジュ「町街人（まちがいど）」を登場させるなど、アイデアも新鮮である。徳島県と連携して大阪の商店街で阿波おどりを催して賑わいを演出したり、地方の信用金庫と連携、その取引先や生産者を、大阪の空き店舗に出店支援したりするなど、文字どおり地域活性化のモデルとなっている。

なお、本年の受賞こそ逸したものの、その着眼点や取組み、長年にわたる地道な努力が注目される活動がいくつもあった。近い将来の受賞を、選考委員としても大いに期待していることを記しておきたい。

2. 受賞活動の概要

【会長賞】

城北信用金庫（東京都）／北区赤羽地区の活性化

城北信用金庫では、金融の枠にとどまらず、積極的なプロデュース活動による地域貢献を信用金庫の大切な役割と考え、その一つとして、北区赤羽地区の活性化に長年取り組んできた。

赤羽地区では毎年季節ごとに様々な行事・イベントが開催されているが、中でも地区最大のイベントとなるのが、来場者 30 万人超という「赤羽馬鹿祭り」である。

「赤羽馬鹿祭り」は平成 27 年に第 60 回の節目を迎えるが、同金庫は昭和 31 年の第 1 回から 60 年にわたり、地元の方々と共に運営に携わってきた。

また、さらなる地域活性化のためには新たな取組みも不可欠と考え、平成 23 年から「東京・赤羽ハーフマラソン」、24 年からは「北区花火会」にも特別協賛等により協力している。

地域外のエリアからも積極的に人を呼び込む「赤羽馬鹿祭り」、地域の方々との協働によってイベントを盛り上げる「北区花火会」、地元・荒川土手を舞台に世代を超えた健康づくりをサポートする「東京・赤羽ハーフマラソン」と、多面的なアプローチによって赤羽地区の活性化に取り組む城北信用金庫は、貢献活動を通じ地域との絆を深めている。

【Face to Face 賞】

福島信用金庫（福島県）／商店街復活へ「ふくしま逸品アカデミー」

「ふくしま逸品アカデミー」とは、福島市の商店街活性化をめざし、各商店の店主がそれぞれに、こだわり・おススメの商品を“逸品”と定め、継続的な販売促進を通して、コンビニやデパートではできない専門店化をめざした活動である。

原発事故以来、この地が「物は出せない、人は入って来ない」地区となったことは残念な事実である。

そこで平成24年、福島信用金庫は、地元に残った商店街連合会の有志と知恵を出し合い、福島市再生のために、補助金・行政に頼らない自立する専門店ネットワークを立ち上げたのである。

そこには、個店の専門性と地域性を復活させ、地元に戻ってくるようにとの熱い思いだけでなく、子どもたちの社会教育の場として商店街を見直し再生させようとの願いも込められている。

商店街が流通機構の変遷に取り残され疲弊してしまっている今の時代にあって、その試みの意義は大きい。

福島型一店逸品運動「ふくしま逸品アカデミー」では、各商店のいち押しの逸品を巡るお楽しみツアーも企画しており、徐々にではあるが、地域の方々にも受け入れられてきている。

【Face to Face 賞】

湘南信用金庫（神奈川県）／久里浜おつかい便「御用聞きプロジェクト」

どの地方においても商店街の衰退が叫ばれて久しいが、湘南信用金庫久里浜支店（横須賀市）の営業地区である久里浜商店街も例外ではない。

商店街の一員でもある湘南信用金庫は、地域活性化に向けた活動を模索する中で、親交のある地元公認会計士の発案による「現代版 御用聞き」の導入を同商店街の青年部に提案。それが「久里浜おつかい便」である。

「久里浜おつかい便」は、コミュニティを重視することに力点を置き、これまで各商店が個別に行っていた配達業務を週 2 回の実施に集約し、配達コストを軽減。また、高齢者等「買い物弱者」への御用聞きを通じ、買い物の機会を提供すると同時に、商店街の販路拡大、独居者・高齢者の見守り活動も兼ねている。

平成25年の活動開始にあたり、地域でも高台にあるエリアをターゲットとして全世帯に

呼びかけたところ、700世帯の約1割にあたる70世帯から申込みがあった。

湘南信用金庫は、金庫業務の傍ら、注文を受けると同時に、各住戸に備え置いている商店街各店舗のチラシ差替えも担当している。

同金庫では、今後は従事者増員と訪問先増加をめざし、商店街と地域、双方の活性化にさらなる貢献をしていくとのことである。

【Face to Face 賞】

津山信用金庫（岡山県）／全国公募のしんわ美術展と企画展開催

津山しんわ文化財団は、昭和51年に津山信用金庫の創立50周年を記念して、同金庫からの基金により設立された。

主な目的は、地域の文化意識の向上と、文化事業の育成を通じ郷土の発展に寄与することである。

その中核をなす「しんわ美術展」は、平成元年に津山市制60周年を記念して第1回が開催されたもので、翌年からは、画家をめざす郷土の若い方々を奨励し、さらに進化させたいとの思いから、全国公募に切り替えた。

平成26年度開催の「第26回しんわ美術展」には約2,600名が来場し、「絵画のすばらしさを作州地域から発信することができた」とのことである。また、第26回からは、さらなる地域活性化のために、作州地域在住の作家を表彰対象とする「地域奨励賞」（5点）が新たに設けられた。

近年では岡山県外からの来場者も多く、作州地域の観光にも一役かっている。

「しんわ美術展」が他の公募展と異なるところは、①出品料、入場料が無料、②事前に審査員を公表しない、という点にある。

津山しんわ文化財団は、津山信用金庫が事務局となり、行事の企画・立案から運営・管理まで、すべてを担当しており、行事への人員派遣もすべて同金庫職員で対応している。

27年2月には、地域行事と連携した企画展【ひしおのお雛まつり】と題して、「しんわ美術展の受賞作品展とちりめんのお細工物」を共催した。このほか、同金庫林田支店3階には、過去の受賞作品をピックアップして展示しており、小さな美術館としてお客さまの憩いの場となっている。同金庫では、地域貢献に資する活動として中身のさらなる充実を追求していく、とのことである。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

しののめ信用金庫（群馬県）／富岡製糸場世界遺産登録への支援活動

群馬県が富岡製糸場の世界遺産登録プロジェクトを発足させた平成15年以来、しののめ信用金庫も地域活性化に貢献すべく、同プロジェクトへの支援に取り組んできた。

19年には、富岡製糸場の世界遺産登録に向けた新規事業などを行う、商店街や中小企業対象の融資「赤れんがローン」の取扱いを開始。さらに、地域経済レポート「富岡製糸場のユネスコ世界遺産登録による経済効果分析」を発表した。

また、富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録を応援する趣旨から、募集総額50億円の「シルクカントリー定期積金」を募集。募集総額の0.25%相当額と合わせて総額1,500万円を群馬県と4市町村に寄付した。

26年には、富岡製糸場の保護活動支援のため、富岡市に1,000万円を寄付したほか、地場産業応援ファンド「絹の里ファンド」の取扱いを開始した。

世界文化遺産登録の趣旨を県内外にアピールするとともに、同地における絹産業や地場産業の創業・育成を支援してきたしののめ信用金庫の支援活動は、26年の富岡製糸場世界遺産登録として結実した。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

大阪シティ信用金庫（大阪府）／シティ信金商店街PLUS事業

大阪シティ信用金庫では、「シティ信金商店街PLUS事業」により、大阪府内商店街の賑わい創出・活性化支援を行っている。

平成18年、客足が遠のきつつある商店街に賑わいを取り戻そうと、地域商店街の実態調査と「市信商店街PLUS事業」の検討を開始。一方、商店街は19年に、地元の大学生が商店街のコンシェルジュを務める「町街人（まちがいど事業）」を、翌年には、商店街近隣の経営者が講師となり、地域の歴史・文化を紹介する「町街塾（まちがい塾事業）」を立ち上げた。

その後、21年の地域商店街活性化法施行を機に、大阪府内全商店街の調査を実施。その結果、①大阪の商店街の強みは全国でも有数の消費地にあること、②新たな街づくりを考えた賑わいの創出が必要であること、③これを解決するための起点となるのは消費効果を最大限活用できる地方公共団体の大阪事務所であると考え、府内33の道府県事務所と連携を始めた。

22年には、地方の公共団体職員や農家の方々と開催した「地元商店街の空き店舗を活用した地方の物産販売、歴史・文化・観光情報の発信」のイベントが大きな反響を呼び、この企画を「市信域街（いきがい）PLUS事業」として立ち上げ、それが現在の「シティ信金商店街PLUS事業」へ発展的に継承されている。

これまでに、延べ452商店街を支援、実施イベント207件、道府県とのコーディネート679件となり、総務省簡易経済波及効果によると、およそ250億円の経済効果があったと試算されている。

【個人賞】

さがみ信用金庫（神奈川県） 市川 博之氏 / 人形芝居を通じた郷土文化の再発見

下中座は、江戸時代中期より神奈川県小田原市小竹地区に伝わる三人遣いの人形芝居を伝える一座で、相模人形芝居は、昭和28年に神奈川県無形民俗文化財、55年に国の重要無形民俗文化財に指定されている。

高校時代に相模人形部に入部した市川氏は、下中座と出会った。活動の大きな魅力は、年齢も仕事も違う仲間と一緒に芝居に取り組めることだという。

公演は、年間15～20回。市川氏によれば「お客さまの満ち足りた笑顔や感動の涙をいただけることが、もっとも大きな喜び」とのことである。

【個人賞】

昭和信用金庫（東京都） 鈴木 勝哉氏 / 地域で繋がっていく青少年育成

「ジュニアリーダー講習会」とは、地域で活躍できる、子どもたちの見本・目標となるようなリーダーを育成するもので、調布市の青少年育成事業の一環として運営されている。

小学生の頃から同講習会に参加していた鈴木氏は、平成13年より指導者としての活動を始め、23～25年には所属地区の会長を務めた。

この活動は平成29年に50周年を迎え、活動に携わった方々は、現在市内のPTAや健全育成委員会など様々な場で活躍している。

【個人賞】

蒲郡信用金庫（愛知県） 松山 公勇氏 / 創作ミュージカルの音楽制作

蒲郡市が開催する「蒲郡まつり」では、毎年創作ミュージカルを上演しているが、平成5年の公演以来、その音楽制作を担当しているのが松山氏である。

松山氏がこれまでに制作した楽曲は、他者の作品の編曲も含めると、212曲にも及ぶ。

同公演は、蒲郡市が広報で出演者を募り、台本、音楽、振付け、衣装、舞台セットはすべて手作り。平成26年には第24回公演を迎えた。

約500席の会場は、毎年立ち見が出る盛況ぶりとのことである。

以 上

＜参 考＞ **第18回「信用金庫社会貢献賞」について**

- 【創設目的】 地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていく。
- 【対象活動】 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、留学生・在日外国人支援、環境保全、各種ボランティア等の地域社会活動および災害救援活動等の分野とする。
- 【表彰対象】 ・信用金庫および信用金庫役職員（個人・グループ）
・地区・府県信用金庫協会、中央団体
- 【選考基準】 活動の継続性（3年以上継続された活動であること。ただし、Face to Face賞の応募活動のうち、その特性から活動期間が必ずしも長期に亘らないもの、地域活性化しんきん運動・優秀賞は除く）、活動目的の社会的意義、地域との一体性（地域に溶け込んだ地域の方々と一体となった取組み）、活動の困難度、援助を受ける側の評価・感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法のユニークさ、などを総合的に判断する。
- 【応募期間】 平成26年11月1日から27年1月31日まで
- 【選考委員】 ※所属等は平成27年3月現在、敬称略
- | | | |
|----|----|--------------------------|
| 島田 | 京子 | 公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 専務理事 |
| 高橋 | 陽子 | 公益社団法人 日本フィランソロピー協会 理事長 |
| 中村 | 利雄 | 日本商工会議所 専務理事 |
| 野坂 | 雅一 | 読売新聞東京本社 調査研究本部総務 |
| 堀田 | 力 | 公益財団法人 さわやか福祉財団 会長 |
| 松岡 | 紀雄 | 神奈川大学 名誉教授 |
| 大前 | 孝治 | 一般社団法人全国信用金庫協会 会長 |
| 秋山 | 勝男 | 信金中央金庫 副理事長 |
| 澁谷 | 哲一 | 一般社団法人全国信用金庫協会 広報委員会 委員長 |
- 【各賞の内容】
- 会 長 賞**・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に判断し、Face to Face 賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞の受賞候補活動の中から最も優れた活動に対し与えるものとする。
- Face to Face 賞**・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々と一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として今後の取組みが期待され、奨励される活動、ならびにその特性から活動期間が必ずしも長期に亘らないものであっても、環境・社会問題への取組み、災害復旧支援など関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。
- 地域活性化しんきん運動・優秀賞**・・・地域社会と中小企業の再生・活性化をめざす活動のうち、各々の地域社会の実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるものとする。
- 個 人 賞**・・・個人あるいはグループの取組みで、信用金庫職員として他の範となる活動に対して与えるものとする。